

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	長塚 駿介 (ながつか しゅんすけ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会 第 49 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	長塚 駿介
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	デイリーハッスルと注意バイアスの程度が買い物行動に及ぼす影響
<p>発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)</p> <p>【目的】 本研究では、日常的ストレスを経験した際の行動の「機能」と「注意バイアス」のあり方が買い物行動の程度に及ぼす影響を検討することを目的とした。</p> <p>【方法】 研究協力者 大学生および大学院生 23 名 調査材料 デモグラフィック項目, 買い物動機選択項目(O'guinn & Faber, 1989 ; 本研究にて改変), 脅迫的買い物傾向尺度 (以下, CBS ; Edwards et al., 1993 ; 本研究にて邦訳), リッチモンド脅迫的買い物尺度 (以下, RCBS ; Ridgway et al., 2008 ; 本研究にて邦訳), 心理的ストレス尺度 (鈴木他, 1997), 買い物カード選択 (Jiang et al., 2019), ビジュアルプローブ課題 (Field et al., 2004 ; 本研究にて改変), ストレス負荷映像 手続き 質問紙への回答を求めた後, 1 度目の買い物カード選択を行った。次に映像視聴を求め, その後 2 度目の質問紙, 買い物カード選択を実施した。最後にビジュアルプローブ課題を行った。なお, 映像視聴の前後で, 買い物カード選択枚数が増加した場合, 負の強化優位, 減少あるいは維持された場合を正の強化優位とみなした。 倫理的配慮 本研究は, 早稲田大学「人を対象とする 研究に関する倫理審査委員会」の承認を得て実施された (承認番号:2022-175)。</p> <p>【結果と考察】 買い物行動の機能と注意バイアスが, 強迫的買い物傾向に及ぼす影響を検討するために, 正の強化優位群と負の強化有意群のそれぞれで注意バイアス得点と CBS 総得点および RCBS 総得点の相関分析を行った。その結果, 正の強化有意群において, 200ms のときのみ, 注意バイアス得点と CBS 総得点に弱い正の相関が見られた ($r=.47, p=.039$)。 これらのことから, 買い物行動の機能によって, 注意バイアスが買い物行動に与える影響が異なることが示唆された。また, 正の強化で維持される買い物依存に関して, 注意バイアスの修正訓練が有効である可能性が示唆された。</p>	

※無断転載禁止